

滋 入東京電機大学校友会

千葉県支部だより

第11号

平成20年5月1日

事務局
千葉市稲毛区緑町
1-5-8
高率電設(株)内
TEL 043-242-1539
FAX 043-242-1884

支部だより第十一号発刊にあたり

支部長 松本 宏

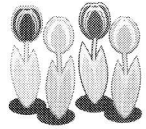
校友会千葉県支部の皆様には益々ご健勝にてご精励のこととお喜び申し上げます。この度「支部だより第十一号」をここに、発刊する運びとなりました。これは関係各位及び諸先輩方のご指導・ご協力の賜物であり、ここに改めて厚く御礼申し上げます。

さて、今年は「天の気」戊(つちのえ)「地の気」子(ね)、「人の気」一白水星だそうです。戊に草冠をつけると茂になり、その茂っている木を剪定すれば、新しい形の木に生まれ変わる。ねずみの年の子は終りの「了」の字と「一」を合体した字ですから、新しく始まるを意味します。「一白水星」「一も白」も物事の始めを表すと言われ、「水星」は年の暮れから年の初めを司る12月の星です。こう考えてくると、今年は新しい事をスタートさせる象徴づくめの年になります。先ず学園に置かれましては、去る平成19年9月11日の創立100周年に際して、「学園創立100周年宣言」により、「東京電機大学人」としての使命・目標が示されました。そして学園創立100周年記念館(仮称)の建設及び神田キャンパスの再整備等、五カ年計画をスタートすべく準備する年と聞いております。したがって、募金期間も3年延長しました。皆様

の更なる応援をよろしくお願い致します。又、校友会は来年10月に迎える「校友会創立100周年記念日」に因んで、「校友会白寿の日」と位置付け、先ず、校友会員に対するサビスの充実、校友会活動の活性化、そして、準会員への支援などを柱にその事業計画を策定しております。今年の千葉県支部総会時の公開講演は元大学長の小谷 誠先生に「脳細胞」について講演して頂きます。「万能細胞を用いた再生医療による不老長寿の可能性」を期待しましょう。そして、千葉県支部のスタートとしては、次の5項目をあげました。

1. 支部役員の改選により更なる充実、
2. 支部だよりの充実、
3. 三大支部(埼玉・神奈川・千葉)の支部長懇談会の実施、
4. 校友会千葉県支部会員の増強、
5. 学園創立100周年記念事業への協力、であります。

今後共、会員各位のご意見を基に「役員が一致協力」して、全国支部の中でも、最も充実して活気のある、そして、楽しめる、支部になるよう、いっそう努力してゆく所存であります。今後共、会員各位のご指導・ご協力をお願い申し上げます。終わりにあたり、千葉県支部会員各位のご健勝・ご多幸を、ご祈念申し上げます。支部だより第十一号発刊の挨拶に代えさせて頂きます。



ご挨拶

学校法人東京電機大学理事長 加藤 康太郎
校友会千葉県支部の皆様におかれましては、松本宏支部長のもと講演会や見学会を開催され会員相互の親睦と研修を図られると共に、学園の発展に諸般ご協力を頂いておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、東京電機大学は昨年九月十一日に学園創立百周年を迎えました。当日は日本武道館において創立百周年記念式典を挙行し、宇田飛行士毛利衛氏による記念講演会を同時に開催いたしました。お陰様にてご来賓・卒業生・大学在校生、中学高等学校全生徒とそのご父母・教職員及び関係者総勢5,530名のご出席をいただきました。さらに祝賀会を1,350名のご出席をいただき帝国ホテルにおいて盛大に執り行うことができました。生の記念イベントが2,150名の参加でこちらも盛大に開催されました。全「東京電機大学人」が結果して創立百周年のお祝いをすることができました。千葉県支部の皆様にも多数ご出席いただきましたことに改めて御礼申し上げます。

創立百周年記念事業の推進に就きましては、寄付募金につきましては千葉県支部としてご寄付を頂いた他、千葉県在住の校友の皆様から沢山の寄付を頂戴いたしております。ここに学園を代表して感謝と御礼を申し上げます。平成十九年四月からは大学の学部、学科の改編を実施し神田キャンパス内に新たに未来科学部を創設して、次の百年に向けてスタートをしたところであり、懸案の神田キャンパス再整備につきましては諸般の事情で遅れてはおりますが「百周年記念館(仮称)」の建設計画を実施すべく鋭意準備を進めております。

学園は少子化の影響で多くの志願者を集めることには苦心しておりますが、卒業生の応援を得て現代社会のニーズに合わせる新しい教育と研究システムの構築に向け改革を進めべく、教職員一同今後とも努力して行く所存であります。皆様の応援をよろしくお願い申し上げます。

千葉県支部の皆様へ

社団法人 東京電機大学校友会

理事長 岡田 榮一

千葉県支部の皆様方には、校友会活動にご支援とご協力を頂いておりますことに厚く御礼申し上げます。

昨年は、学園の最大の行事であり私達卒業生にとりましても大きな関心事でありました学園創立百周年記念式典並びに祝賀会を、皆様と一緒に祝いすることができました。千葉県支部からは支部及び会員の皆様から「学園創立百周年記念事業募金」に多大なご寄付を頂いております。誠にありがとうございます。金委員会副委員長の立場からも御礼申し上げます。校友会と致しまして平成十九年五月に開催された第六十八回校友会総会においてご賛同の議決をいただき、学園に一徳円の寄付をいたしました。募金に就きまして学園は募集期間をさらに平成二十二年度末まで三年間継続することが決定いたしましたので引き続きご協力の程を切にお願い申し上げます。神田キャンパス再整備計画に就きましては、諸般の事情により具体的な発表が遅れてはりましたが、「百周年記念館(仮称)」の建設概要が近々に公表されます。キャンパス全体の再整備に就きましては時間がかかることでは

「ございますが、再構築を期待と希望を持って見守りたいと思います。」

校友会の事業に関しては、会員へのサービスの向上により会員の増強へつなげるべく、生涯使用できる転送メールアドレス提供の検討・卒業生転職希望者への情報提供サイトのアップ・ホームページからの校友会加入手続き簡略化と促進・校友会入会案内の追加送付等努力しているところがございます。

また、電機学校同窓会を起源とする社団法人東京電機大学校友会が平成二十一年十月にめでたく創立百周年を迎えることになりました。校友会理事会に「校友会創立百周年記念事業計画委員会」を立ち上げ、記念式典・祝賀会・年史発行の計画と準備を昨年より開始したところがあります。

千葉県支部の皆様には今後とも校友会へのご理解とご協力をお願い申し上げます、本年も会員の皆様には益々ご活躍の年でありますようにご祈念申し上げます。

続ヒマラヤトレッキング(2)

昭和三四年卒 田中 豊明

支部だより一〇号の「続ヒマラヤトレッキング(1)」で次号に続くつもりでした。

一〇号の中で今年(平成一九年)はバルトロ氷河を辿る(カラコルムにあり世界第二位の高峰K2八六〇一メートルがある)旅が、マナスル連峰(マナスル八二五五メートルは昭和三年に日本隊が初登頂した唯一の八〇〇〇米峰)にしようかとしましたが、バルトロ氷河は錦稜会の森本と上原の二名が九月に、マナスル連峰は一月に井上、桑原、森本、福田、田中の五名で行って来ました。

錦稜会のヒマラヤ熱は益々高まり、今年も一二月頃に紅茶で知られたダージリンの北方

にある、世界第三位の高峰カンチエンジュンガ八五六米を見たいと計画しています。

さて、前号に続き、思いつくままを、紹介します。

三軒茶屋(昔は一軒茶屋)

昨年行ったジヨムソンから山岳砂漠の中の広い川原を歩いて最初の宿泊地のエクリバツティと言った所に着いた、『エクリ』は『軒の』、『バツティ』は『茶店』である。昔はムスタン王国の聖地ムクチナートへの巡礼街道の休憩所の『一軒茶屋』だったのが三軒になって、正に『三軒茶屋』である。

今回のサーターとはまだ半日のお付き合いだが東京に三軒茶屋と言った所がある話をしたらすっかり打ち解け合うことができた。

ロッジの三歳位の可愛い子供とすぐに仲良しになれた。翌朝テントを訪問してくれたので挿絵のあるネパール語の会話帳を見せて遊んだ。

太陽熱炉(砂漠の知恵)

ムスタン王国地区は、八千米級のアンナプルナ山郡とダウラギリ山塊の北側に位置している、チベットと同じ気候のため樹木は全く無い、山岳砂漠である。

村の周辺には上流より用水路で水を引き、畑があり、畦には大きな木がある。枝を切り燃料にして、幹だけを残している。

ロッジの裏庭に直径二米位のステンレス板の短冊で作ったパラポラ炉があり大きな薬缶が焦点に置いてある。太陽の追尾は手動だがお湯が沸いていた。ランタンヒマール地区では、手作りの太陽熱温水器で、温水シャワーの商売をしていた。観光客が増えるとエネルギー問題も大変だ。

この地区では死者を葬るのに水葬、土葬、火葬、鳥葬の四種類のどれかを、ラマ僧が占

いで決める、水葬、鳥葬はよくあるらしい。砂漠で火葬するには、燃料を調達するのが大変なことなのかも知れない。

フォト、フォト(写真と子供達)

カメラを向けると「フォト、フォト」と思っているポーズで大勢の子供が寄ってくる。思いのポーズで大勢の子供が寄ってくる。デジタルカメラは便利で、すぐに写真をモニターで見せることが出来る。皆目を輝かせて覗き込みカメラの取り合いだ。子供は天真爛漫で屈託がない、からかっているときりが無いが楽しい一時だ。

旅行者の行かない山村の子供は特に純真だ、街道を外れて山に入る村で休憩していると、三人の就学前の子供が近づいてきた。そこで「フォト、フォト」で出発迄に仲良しになり村はずれまで付いて来て、いつの間にか八人になっていった。皆を並べて記念写真をパチリ。

平成一三年のとき、テントの近くに来た子供の写真、平成一七年のとき、皆に配った大喜びで、母親が出てきて家族で撮ってくれとのこと、またパチリ。当時お尻を出して遊んでいた幼い子が、可愛い女の子になっていった。

この話をサーターが聞き、撮影した村が分かれは届けることが出来るとのこと。昨年は各方面の村ごとに分類した写真を沢山持って行き、スタッフの奈良女子大学卒業の、日本語ペラペラのネパール小母さんをお願いしてきた。

今頃は、子供たちに届いていることだろう。次に行くときは、さらに沢山プリントして、届けるのを楽しみにしている。

俺達は電気屋だ(ネパールの電気事情)

錦稜会には強電、弱電、無線、コンピューター屋、工場技術者、工事屋等一角の技術者が居るが、ネパールの電気事情は皆目見当がつかない。

首都カトマンズの立派なホテルでも部屋、洗面所等にローソクとマッチが置いてある。

王宮前通りの宝石店で、お土産の品定めのため、数個カウンターに並べている時に停電。店員は慣れたもので、すぐにローソクを灯した、こちらが狼狽して身の潔白を示す始末。都会でこの始末だから山間部では酷いものだ。道端の配電線はいく加減なものだ。昨年のジヨムソン街道は、暗くなる六時過ぎに三〇分位の停電が毎日あった。

カトマンズの郊外に落差五〇米位の太い導水管が三本の立派な水力発電所があった。山間部には最近、数百キロワットの水発が作られて居ることである。

ホテルや裕福な家庭の屋上には、直径二米位の手作りのパラポラアンテナがあり、衛星放送のテレビを見ているようだ。

カトマンズの郊外に電気学校と言われている校舎があるが、ただ教室があるだけで、実験習の用具、設備は見当たらない。

錦稜会の老人ハワーも、ネパールでは役に立つのかも知れない。(完)

千葉支部見学会

陸上自衛隊木更津駐屯地第一ヘリコプター部隊と航空資料館見学会報告記

幹事：安藤 志朗

平成20年3月1日(土)、千葉支部の見学会は天候に恵まれ、晴れ渡った木更津西口駅前から始まった。参加者の皆様待ちきれなかった様子で、幹事が受付のJR木更津西口交番前に、11時10分に到着し、早速校友会の旗を掲示したとたん、参加者が集合しだした。案しみてすね、の一声からこの見学会は始まった。電車を間違えたのか、遅れた一人を残し、

昼食会場へ。お昼がまた凄い。刺身定食である。皆様の食事が終わると、司会の幹事が、松本千葉支部長を紹介し、支部長挨拶で幕開けとなった。昼食時間が終了する直前に入屯での注意事項を説明し、待望の木更津駐屯地へ移動することとなった。田中副支部長がしっかりと手配くださった関係で、27名全員揃った参加者は、順調に乗車となるはずであったが、ごつも、一人の席が空いている。田中副支部長が、紹介した「證誠寺」に走って行っちゃったみたい。これは大変。間に合わないかなと心配していた矢先戻ってきた。時間的にはびったりの出発となった。良かった。入り口は厳しく隊員が監視している。早速坂本さんに電話連絡し、少し早く着いたことをお知らせし、お迎えを頼む。程なく見えた広報班の坂本さんも乗車して、航空資料館へ。ここで、送迎のバスを帰し、視察開始。旧木更津海軍航空隊当時の昭和11年の古い建物である。中は、旧木更津海軍航空隊当時の品物・写真及び、戦死者の遺品・遺書などを主に展示してある。そのほかにも、政府専用ヘリや格納している駐屯地の輸送ヘリや偵察機などの写真展示があった。最初に、副団長の市村一等陸佐の挨拶、広報班長の大竹一等陸尉の歓迎挨拶に続き、坂本さんから、一通り説明を受け、ビデオを見、館内見学となる。メインのヘリ見学の時間が来たので、航空資料館館内の見学を早々に切り上げ、記念撮影としゃれ込んだ。

この隊員は1,000名で組織されている。また、政府専用機は3機体制で20年使用するつもりである。輸送ヘリとアパッチコブラが立川所属であるが、配置されているとの事であった。これから皆様期待の第1ヘリコプター団の政府専用機ヘリと大型輸送機の見

学である。ところが、急に風が強くなり、天候も怪しくなったとの事で、駐屯地側がバスを提供してくださった。あり難い事である。当初は、全員歩きだったのが、移動が案になり、大変重宝した。実機の見学は色々質問もあり、大型輸送機には乗り込むことも出来たため、時間がかかった。少し予定よりオーバー気味であったが、バス提供のお陰で、次の政府専用機のヘリ見学も予定時間で終了した。

コックピットに入り、操縦桿を握れたのは、初めてだったので、感激でした。イヤ参加してよかった。

次はいよいよ皆さん初対面の政府専用ヘリ、国会前に下りてきたり、被災地視察で活用されたり、と多忙な活躍をしているヘリである。ブルーと白を基調とした機材は、大変美しい。輸送機とは大違い。皆さん覗き込んだり、触りたいようであるが、見学時にワックスをたつぷり塗りこんでるので、触らないようにとの厳命のため、遠巻きにするだけ。うーんいまいち。でも、ゆっくり記念撮影。カシヤ。

さあ、見学終了予定の時間。しよつがないので、再度航空資料館にバスで戻り、この後は、見学した関係の質問コーナー、色々疑問点をぶつける。でも、坂本さん、全く嫌な顔もせず、誠意を込めて回答している。とうとう予定の午後3時半が来てしまった。後ろ髪を惹かれる思いで、再度おこしになりたい時は、偵察機も見学して下さいという声にまた来る気になった会員もいる盛況の中、懇親会場のバスで、木更津駐屯地を後にした。来る時も近いと感じたが、直線的にバスは夕食兼懇親会場へと到着する。宝家だ。全員が昼食を食った会場に収まると、懇親のイベントで

ある。松本宏支部長の挨拶で始まり、松本武副支部長の乾杯で、懇親は佳境に。色々なご意見を承り、次回の糧とする。しかし、苦情が無い。またやれとの激励が多い。良かった。ホッと胸をなでおろした。飲み物も食事も満足の中、田中副支部長の中締めで、午後5時半お開きとなった。会員の皆様は、遠い木更津までおこしになり、参加され、満足できなかったら、怒鳴られるかなと不安だったが、それも払拭できた一日だった。次回も支部見学会多数の参加を検討しますので、是非支部会員の皆様、参加くださるようお願いいたします。でも、一言だけ言わせて貰うと、支部役

員の皆様、どうされたのでしょうか？年度末の3月と言ったこともあるでしょうが、少し支部役員が少なかつたのが悔やまれる見学会でありました。参加された会員さま、役員の皆様、ご協力有難うございました。次回もよろしくお願ひします。

米国大統領への手紙

幹事 堀岡 佑吉

発想の奇抜さ、卓越した行動力、あくなき研究心など、先輩方に接する機会から学びものは多くあります。そうした我が先輩を誇らしく思い、また我が人生の生き方への糧として参考とさせて頂くことが多くあります。毎年ヒマラヤに登る山岳部卒といわれる先輩、勉強が嫌いで大学の学長までやられた先輩、また、昨年の千葉支部見学会には、90歳を越えても尚、千葉キャンパスの風力発電見学会に2時間以上の行程をいとわず参加されたばかりか話を伺って、話の端々にインスピレーションがどうだとか、洗濯の方法は、こうすれば水が節約されてECOになるよとか、生活上の研究から、健康管理の方法であるとか、帰ります。

の電車の中でのひと時の会話に目を見張るものがありました。まだまだ沢山の先輩がおられる中、ここでは、米国大統領に手紙出した先輩の話を書きたいと思ひます。まさか会社の先輩が米国大統領に手紙書いていたとは信じがたい事実がありました。確かに電機大学の中でもESSであるとか、独学で英語の勉強をした人は多いことと思ひます。しかし、相手がペンフレンドではなく、米国大統領というところに驚くばかりか、結果的に日本を電子立国にした半導体業界の1本の柱を立てた先輩でもあるのが驚きを超えて面白いエピソードです。

一般的には、日本の一企業に働く技術者が米国大統領に手紙を書いたとしても、毎日大統領執務室に届くであろう手紙の類は、実務上の書面、陳情や外交上の書面や海外からの手紙の中に埋もれてしまい、返事が来るなどと思わないのが常識であろうと思ひます。

しかし先輩は米国大統領に宛てて書いたのです。「私は半導体技術を理解するものであります。英語も話せる。米国には日本で半導体事業をやりたい企業があるならば、そうした企業を紹介できないか」といった内容と聞いています。これが英語でどう書かれたかは不明ですが驚くべき内容であります。すなわち半導体業界で今尚世界をリードするその会社の日本法人を立ち上げ、成功させ、結果米国と日本の同業界に多くの影響を与えたサクセスストーリーの主人公であり、業界に大変大きな業績を残されました。勿論この話、その先輩が凄くと思ひますが、こうした手紙にも反応し、回答してくるところの米国の仕組み、米国の大統領を取りまく事務方・組織、ビジネスチャンスを活かす体制は驚くべきものがあります。

とにかく、その企業とは、お客様としていろいろお付き合いをさせて頂きましたが、その会社の雰囲気や仕事の中にも夢やウィットに富んでいました。当然仕事のやり方も日本のそれと異なり、大いに参考になったものです。また、スケールの違いを感じさせるものが多々ありました。

その会社と技術ミーティングの後、食糧の機会がありました。米国の人の趣味はどんなものがあるか聞いてみたものです。ちなみに私の趣味の一つの家庭菜園の話をしてみた。「それは、リトル・ファーマーだ」という言葉が返って来ました。「私がやっているのはビッグ・ファーマーだ!」「あなたの植えているものはどんなものか?」いや大根・人参など、マー30センチほどの野菜です。そのビッグ・ファーマーと云うのはどんなにビッグなのですか?。

「私の農場(ファーム)で植えているのは30メートルくらいの植物」ついでにトナカイやクマも飼っている。まー会話の中身はそんな展開でした。すなわち、大自然の中で生活しているということを書いていたので、それがそれ以来、私は畑の広さを話すときは、1,000(マイク) エーカーと(マイク)部分で少し小声でエーカーを誇張して説明しています。実際彼らの自宅にいった話、朝食後グループで30分くらいかけて庭を案内され、川の袂で「ここまでで土地の半分、25万坪を回った。後半分は川の向こうで、私もまだ行ったことがない」というもの。

そんな話であった。米国ではどこへいくのも車、片道2〜3車線往復数車線の無料のハイウェイが縦横無尽に走っており、延べ総距離は大変なものであるが、日本のようにあちこちで道路改修工事を目にするのは少な

いし、道路の必要性は、日本以上であるが道路問題をあまり耳にしない。

話は先輩のことに戻りますが、先輩は日本に3工場と日本本社を造り、退職後自ら研究活動に没頭しておられた。大統領への手紙から始まり、米国のその企業もすごい成果を上げた訳であります。

米国の大きさと先輩の人の大きさが合致して出来上がった成功話であります。世界を股にかけ活躍された先輩も沢山おられることと思います。しかし、米国大統領宛てに手紙を書き、またそこからビジネスチャンスを勝ち取った人はこの先輩以外にはおられないと思います。ここにその業績を我らの先輩として大いに讃えたいと思います。

第37回千葉県支部通常総会報告

副支部長 花井 卓郎

第37回通常総会が平成19年6月9日(土)母校の千葉ニュータウンキャンパスに62名の出席者を得て開催された。

総会に先立ち「東京電機大学未来科学部・未来科学部設立の理念」をテーマに未来科学部長 工学博士 大園成夫教授の特別講演が行われ、新設された未来科学部の目的は「これまでの東京電機大学100年の歴史を基に、来るべき次の100年を担う人材を教育することにあり、特に人の生活空間を総合的にデザインすることである」と設立の経緯、概要、現状等について紹介がされた。

講演後、総会に入り、冒頭、支部長より総会開催の挨拶、創立100周年を迎える母校の発展の現状として未来科学部の新設、受験生増等の紹介と100周年記念事業への協力決意が「全東京電機大学人」として必要と述べられた。次いで、加藤学園理事長のメッ

セージが高橋創立100周年記念推進部長代理によって代読、次の100年に向けて更なる発展のための創立100周年記念事業の進捗状況が全学改編、未来科学部の新設、神田キャンパスの再整備等を中心に紹介された。また、岡田校友会理事長挨拶では、記念事業に対し、校友会から1億円の寄付をした報告とともに校友会活動への卒業生の参加協力要請が行われた。

引き続き議事に入り、平成18年度事業・決算報告、平成19年度事業計画・予算案等の審議が行われ、いずれも原案通り承認された。

総会後、見学会として、「愛知地球博・日本政府館出展 驚異の裸眼立体ディスプレイの上映見学」が情報環境学部 工学博士 新津靖教授の解説によって行われ、その立体感の素晴らしさに一同感嘆させられた。

懇親会は、総会場に近い食堂に移り、これまでとして大園学部長様、田窪学部長様、高橋記念事業推進本部長代理様、浅見同本部次長様、岡田校友会理事長様、高久常務理事様、村田大学同窓会長様、高田事務部長様、山村課長様、友常課長様をはじめ多数の方のご出席を賜り、山村様のご挨拶、続いて、高久様乾杯で開催された。和やかなうちにも盛り上がりを見せ、予定を1時間オーバーする大盛況のなか、大塚常任幹事の一本締めにて閉会となった。

最後に、校友会事務局、千葉キャンパス事務部の皆様には大変お世話になりましたことに心より御礼申し上げます。

千葉県支部総会と講演会

見学会及び懇親会の「ご案内」

6月14日(土)「講演会」「見学会」「第38回総会」「懇親会」を東京電機大学千葉ニュー

タウンキャンパスで開催します。

〔講演会〕：無料(一般公開講演です)

時間：11：00〜12：45(受付10：30)

場所：教育棟3階 308教室

テーマ：「社会で活躍できよう」

脳細胞を育てよう!

〜幼児の早期教育から老人性認知症の予防

再生医療で不老長寿の世界へ

講師：東京電機大学元大校長

工学博士 小谷 誠教授

〔見学会〕

講演会に続いて「MRI」「脳図計測」の

見学

〔第38回総会〕

時間：13：00〜13：50

場所：308教室

〔懇親会〕

時間：14：00〜16：00

場所：教育棟 1階食堂

会費：¥3,000

以上、詳細は別紙同封し

ました(ご案内)をご覧ください。

編集後記



平成19年度の千葉県支部活動の目玉は3月1日に実施しました陸上自衛隊木更津駐屯地の見学会だったと思います。参加者27名は今までの見学会等で最も多い人数でした。ご協力感謝します。本号は支部の方々からの投稿が多く集まりました。今後支部会員の皆様からの原稿をお待ちしています。

平成20年度は役員改選期ですが、新役員(案)が決まらず掲載できませんでした。6月14日の総会で皆様に決めて頂く事になります。